

平成 22 年度予算 総額 805 億 1310 万円

一般会計 507 億 5500 万円

特別会計 297 億 5810 万円

財源を確保して、 市民サービスをグレードアップ

平成 22 年度当初予算編成のポイント



市税の減収(12 億 6000 万円)が見込まれる中、国からの地方交付税等を20億円程度増額して確保することを見込み、さらに平成 21 年度 3 月補正予算において、今後 5 年間、毎年 5 億円国からの資金を活用できる合併特例振興基金を創設しました。

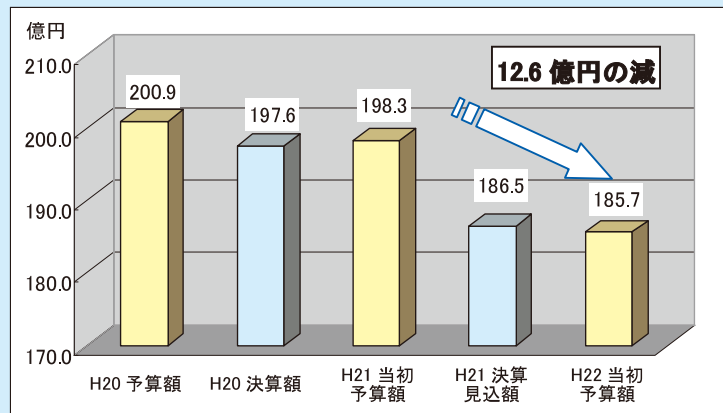
これらにより、平成 21 年度当初予算に比べ、一般財源等総額(合併特例振興基金を含む)約 10 億円を増額して確保し、さまざまな市民サービスのグレードアップを実現します。

古河市長 白戸 伸久

財源の確保

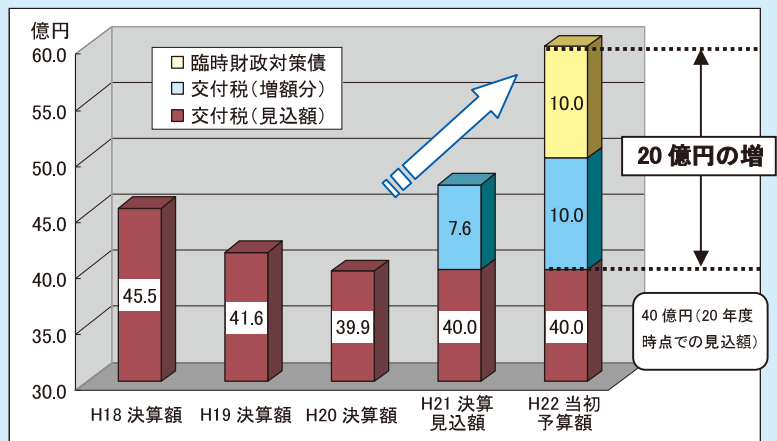
① 市税の減収

市税は、金融危機に端を発した世界同時不況の影響により、平成21年度から大幅な減収となり、平成22年度は、平成21年度当初予算額に対し、12.6億円の大幅な減収が見込まれます。



② 国からの交付税等の増額確保

国からの地方交付税等は、平成20年度まで減少傾向にあり、平成20年度時点では、平成21年度以降も40億円程度としていましたが、平成21年度からは増額して財源を確保し、平成22年度は、平成21年度当初予算に対し、20億円の増額を見込んでいます。



※地方交付税等には、普通交付税のほか、臨時財政対策債を含みます。